

差異共有能力としての異文化能力

現代の異文化能力論・異文化コミュニケーション能力論の概観

から見える文化機能論

と

新たな異文化能力モデルの提案

ケンパー・マティアス 2009年4月14日

現代異文化能力論の現状

日本・米国

異文化能力論の関心がやや希薄

→ 「異文化能力否定論」

☆ Bennettの異文化感受性発展モデル

☆ 異文化適応論

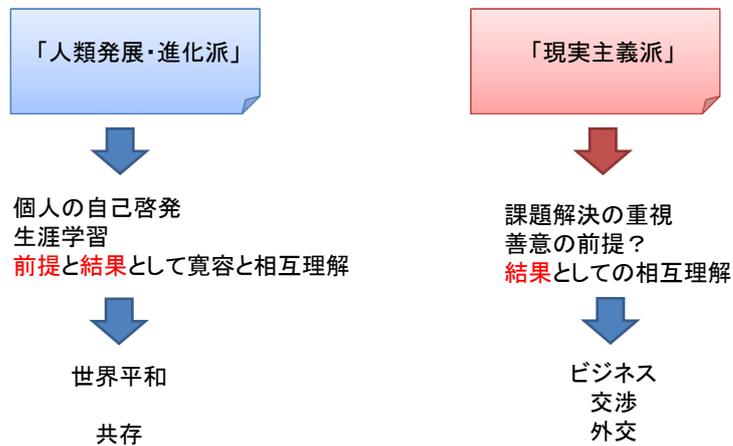
欧州

異文化能力論の関心が非常に高い

→ 「EU」の急速な拡大

☆ Byramの異文化コミュニケーション能力論(FLE)

「異文化能力論」における派閥



異文化コミュニケーション能力と異文化能力の区別

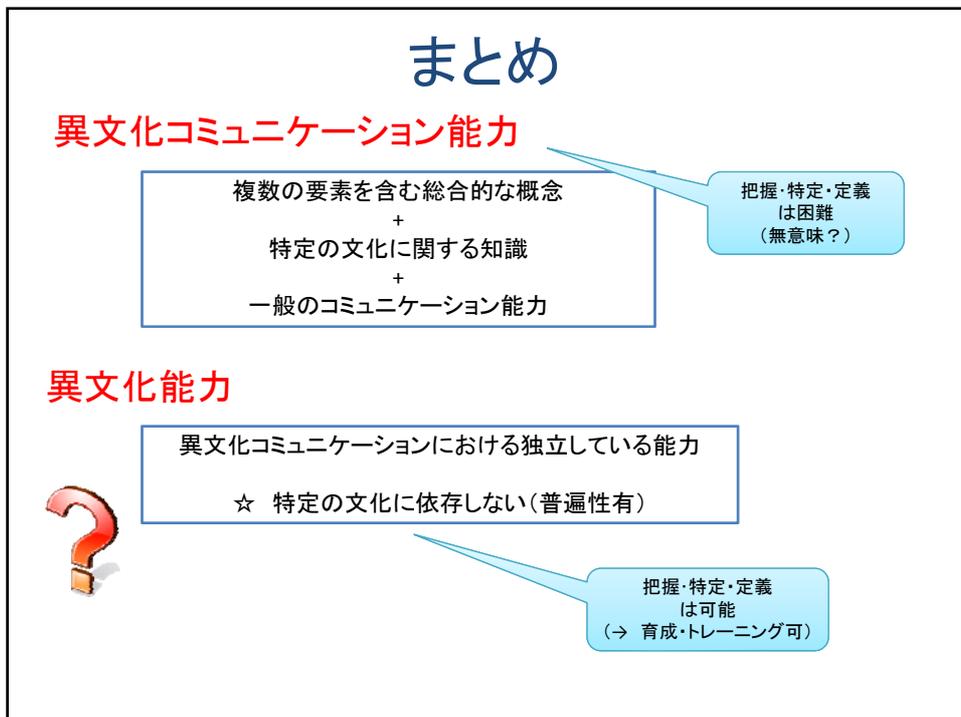
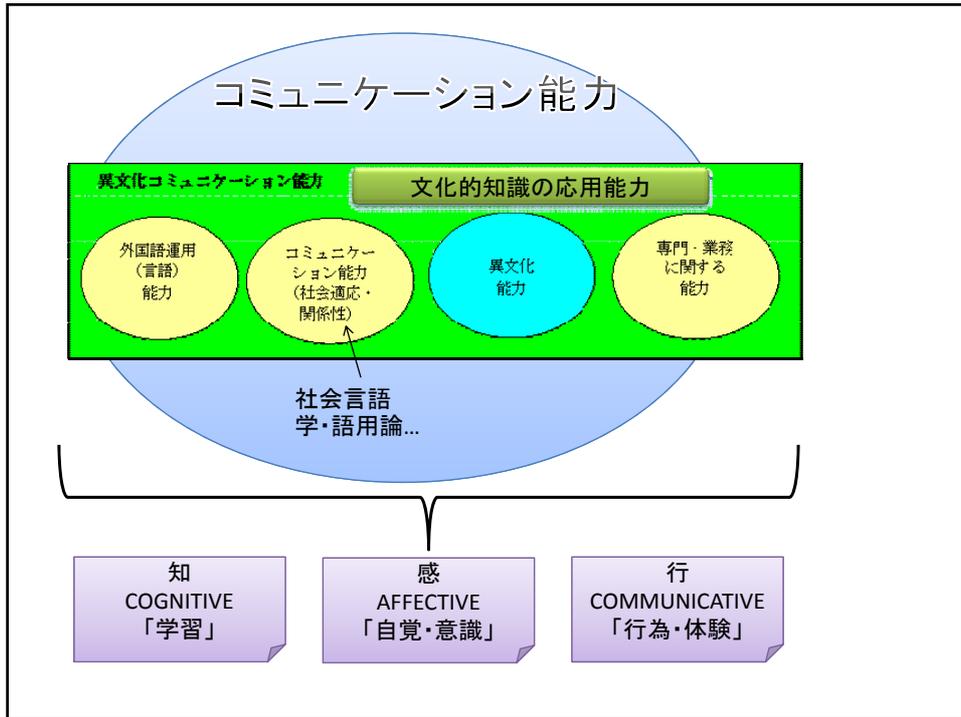
従来の定義

異文化コミュニケーション能力とは、

- 異文化コミュニケーションを成功させられる能力である。
- 異文化的場面・コンテキストにおいて適切に振る舞う能力である。
- 異文化のコンテキストを有する相手と有益な関係を築く能力である。

問題点

- 成功・適切は何を指しているのかは不明
- 成功の要因は多数に存在する(言語力・戦略...)



異文化能力の解明

その手がかり：文化の機能

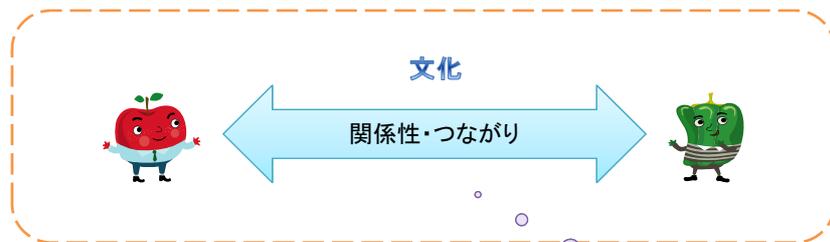
文化の簡易定義：

集団の成員の間を関係を構築可能とする存在

簡単に言ってしまうと：

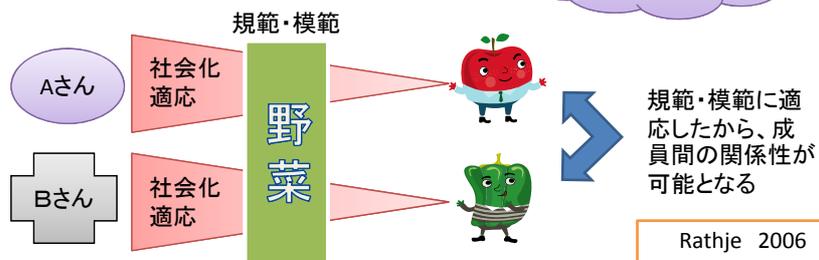
文化とは、人々を繋ぐ何か。

特定の集団・社会



文化の一貫性による？

どうやって？



文化の機能(成員を繋ぐ)は**一貫性**による
ものであれば...



野菜文化と果物文化の異文化コミュニケーションを成功させるために
片方の適応が**一貫性**を達成するために必要である
(もしくは双方の第3の模範・文化への適応が必要)

「一貫性」 = 関係性の条件

(長期滞在・移民・留学・国際結婚等々の想定 → Benett)

「一貫性」 = 関係性の条件

- 文化的知識の学習
- 再社会化・再文化化
- 長期的なプロセス (→ 内面的な変化・変容、価値観)

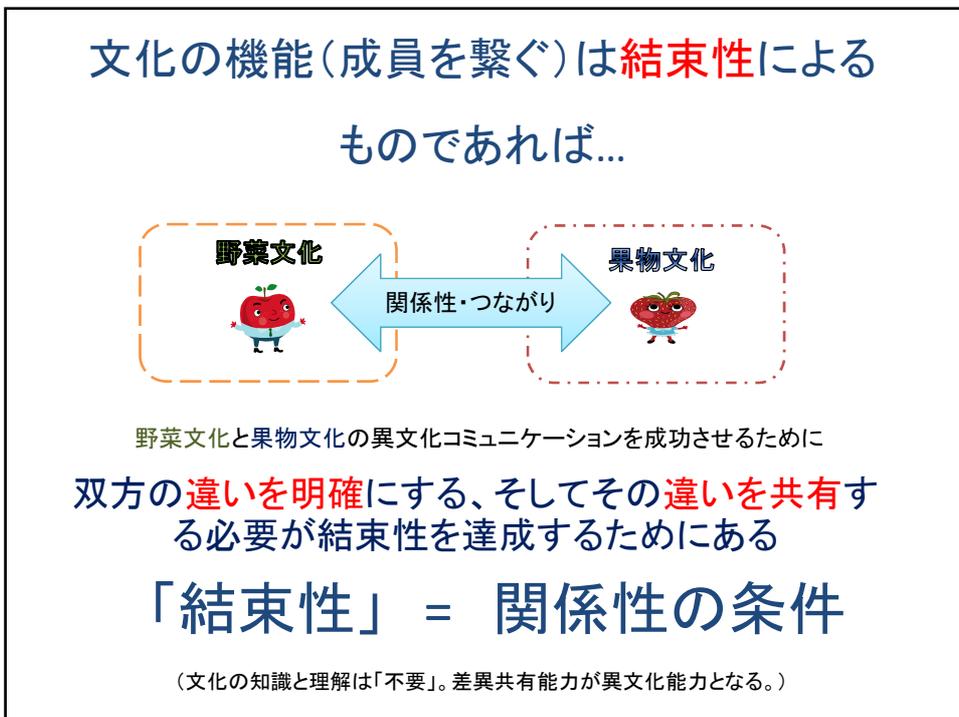
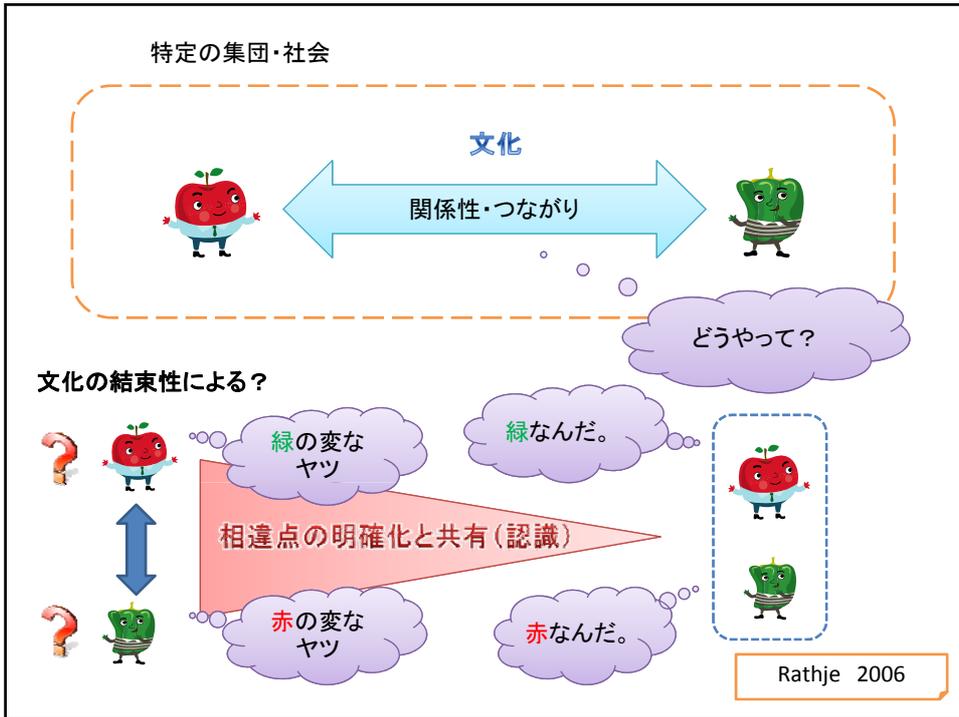
他文化の理解がスタート時点

ビジネスや日常生活を考えれば、

一貫性に基づく異文化能力論

は非現実的である。

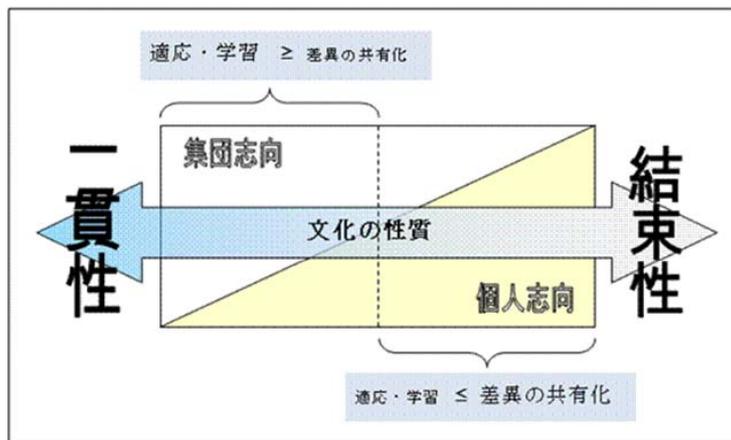
(ケンパーの見解)



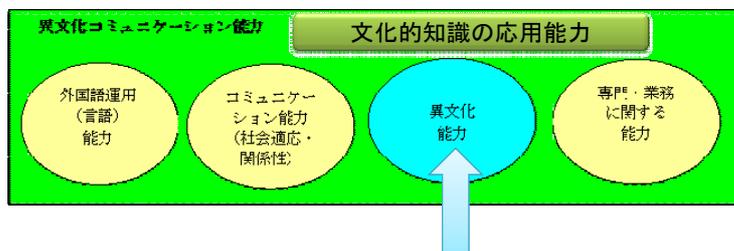
但し、一貫性と結束性は補完的に共存する

集団主義・個人主義

ケンパーによる文化性質モデルの異文化能力論への影響



100%集団志向・個人志向の文化が存在しないため、
 差異の明確化と共有によって互いに対する不信感と不安を軽減する
 ことが可能であろう。



差異共有能力

- 相違点の発見
- 相違点の客観的な把握
- 相違点をコミュニケーションするスキル

「私はA、貴方Bだね」

課題

- 相違点の発見(意識化)
- 相違点の客観的な定義
- 差異共有能力としての異文化能力の測定・検証
- 差異共有能力としての異文化能力の開発・育成

課題解決案

- D.I.E.法の応用？
 - Describe/Interpret/Evaluate
- FACE異文化コーチングモデルの応用？
 - Find/Accept/Connect/Enjoy

参考文献

- Adler, N.J.(1998). 『異文化組織のマネジメント』IBI国際ビジネス研究センター(訳). セントラル・プレス
- Baumer, Thomas (2002). *Interkulturelle Kompetenz*. Orell Fussli
- Benett, M.J. (1986). *A developmental approach to training for intercultural sensitivity*. International Journal of Intercultural Relations. 10, 170
- Byram, Michael (1997). *Teaching and assessing intercultural communicative competence*. Multilingual Matters
- Hofstede, Geert & Hofstede, Gert Jan (2005). *Cultures and organizations : Software of the mind*. McGraw-Hill
- Rathje, Stefanie (2004). "Unternehmenskultur als Interkultur : Entwicklung und Gestaltung interkultureller Unternehmenskultur am Beispiel deutscher Unternehmen in Thailand. *Sternenfels: Wissenschaft und Praxis*
- Rathje, Stefanie (2006). "Interkulturelle Kompetenz : Zustand und Zukunft eines umstrittenen Konzepts" *Zeitschrift für interkulturellen Fremdsprachenunterricht* 11:3,15
- Trompenaars, Fons & Hampden-Turner, Charles (2001). 『異文化の波 : グローバル社会・多様性の理解』須貝栄 (訳) 白桃書房